

みなまた環境まちづくり推進事業
観光と公共交通円卓会議 第2回中心市街地活性化分科会

【開催日時】 2011年11月29日（木）18：30～20：00

【開催場所】 水俣市役所本庁4階 全員会議室 AB

【参加者】 参加者名簿・座席表参照

司会：鎌田係長

【会議内容】

- (1) 開会のあいさつ（担当：厚地部長）
- (2) 有識者委員紹介
- (3) 議事
 - 中心市街地の活性化について（担当：価値総研 高尾）
 - 中心市街地の活性化に向けた連携策について意見交換
- (4) 事務連絡
 - 次回の中心市街地活性化分科会開催日：12月15日
- (5) 閉会

【中心市街地の活性化に向けた連携方策等の意見】

発言者	発言内容
平田	<p>2030年ごろには、市の人口が2万人程度になると予想される。また、車の交通量も減少傾向である。高速道路ができると、3号線あたりはガラガラになるが、そのあたりについては考慮されているのか？</p> <p>高速道路が整備され、佐敷あたりは幹線道路がガラガラになってきている。水俣も将来そのようなことが懸念される。高速道路の開通を想定した幹線道路沿線（3号線）の対応策が必要である。</p> <p>＞応答（価値総研 山崎）</p> <p>長期的なコンパクトシティの形成を考えているので、人口減少は考慮している。高速道路整備等のインフラ整備も考慮しているが、整備された場合に、3号線が具体的にどのようなかまでは、十分に考慮できていない。</p>
植田	<p>今いくら交通がよくなっても、受け皿としての魅力が足りないと、商店街の人間として感じる。これからもがんばっていく必要がある。行政が、色々な形で取り組んでいただければ、商店街ももっと頑張っていく必要がある。大手の商店ができないことをやっていきたいと思う。交流人口が増加した場合に、受け皿としての商店街の魅力向上、ロードサイド店に打ち勝つ商店街をどう作るかを考えたい。</p> <p>＞応答（鎌田）</p> <p>次回の分科会（12月15日開催予定）で各商店街の取り組みについて、掘り下げて議論していきたいと思う。</p>
高倉	<p>中心市街地活性化の取り組みは、地域のイベント等とセットで進めていけたらよいと思う。中心市街地の人口密度が低下しているが、月の浦を除いて、郊外の人口が増えているわけでもない。中心市街地活性化の施策は、人口減少を食い止める施策と一緒に取り組む必要がある。車と自転車が同時に走ると危ない面があるため、車と自転車が共存できるような道路の整備が必要だと考える。</p>

発言者	発言内容
松橋	<p>人口が減る、変化するタイミングを考慮することが重要である。</p> <p>これまでの20年で、車を使って郊外で買い物をする事が普及した。しかし最近では、若者の車離れや、ガソリン価格高騰、低燃費車の販売好調などといった現象から、消費者の行動は転換点にあると言えるだろう。これからの20年は、これまでの20年とは違って来る。</p> <p>人口減少などの変化は大都市、中都市から起こり、水俣市などの小都市においてはそのタイミングに遅れはあるものの、いずれ同じような変化が起こる。</p> <p>人口が増えている時は、郊外化や、都市の分散が進むが、人口が減少していくと、都市の集約化が進む。人口が減る時は、限界集落から減り、人口密度の高い中心部は残るからである。</p> <p>自治体の資金が減少していく時に、無理に人を中心市街地に移住させるのではなく、中心市街地を皆の為の場所として活性化することが重要である。</p> <p>車で来て、駐車場に止めて、そのあと歩いて回れる仕組みを構築する事も重要である。例えば、病院への来院者をうまく市街地につなげていく仕組み等。</p>
松岡	<p>高齢者が大きな荷物を購入した時に、自宅まで届けるシステムを商店街と交通システムとの連携で構築してもらえると、高齢者も安心して大きな商品を水俣の商店街で購入できる。</p>
川上	<p>中心市街地の人口密度低下といった課題に対して、街中居住を進める方策もあるが、交通の便が悪いところから人口減少する傾向がある。中心市街地から離れたところに住んでいる人も、公共交通を使いやすくする仕組みの構築が重要である。</p>
原田	<p>この資料から自動車依存度が高いと言えるのか、ちょっと疑問である。また、病気を患っている時に病院に行くのに、その病人を中心市街地へということには無理があると思う。</p> <p>> 応答 (価値総研 高尾)</p> <p>医療センターの来院者については、もう少し詳しく調査する必要があると思うが、必ずしも重病患者ばかりではなく、定期健診や薬の処方してもらいにくる比較的元気な患者も一定数居ると認識している。</p>
平田	<p>産交バスがなくなり、みなくるバスに切り替わってから、公共交通が商店街の前を通らなくなり、旭町商店街は売上高が激減した。商店街を公共交通が通ることは、まちづくりを考える上では重要である。公共交通機関の利用者は、来た時とだいたい同じルートを通って帰る。</p> <p>中心市街地は、どの辺りを考えているのか？コスモスやロッキー辺りも入っているのか？水光社と7商店会を含めた市街地を考えているのか？</p> <p>> 応答 (厚地)</p> <p>当分科会では、7つの商店会を中心市街地と想定している。</p> <p>> 応答 (鎌田)</p> <p>平成14年に作った中心市街地活性化基本計画は、コスモスやひばりヶ丘まで含まれているが、疑問に思うところはある。計画を策定してから時間がたっており、新しい計画を作成するときには、対象区域について再度見直す必要がある。</p>
松岡	<p>消費者としては、出水等大きい店(品揃えの豊富な店)に行ってしまう。魅力ある商店街をどうつくるかということが重要である。商店同士が連携して、攻めの商売を展開する事も考えられる。商店街に来た顧客だけでなく、商店街以外の田舎等他地域に売りに行くのも良いだろう。現に、JAは車で他地域に売りに行っている。</p>
鎌田	<p>中心市街地の病院に来る患者の行動について、教えていただきたい。</p> <p>> 応答 川上</p> <p>当院の場合、私の感覚によると病院利用者だけ年間3万数千人が来ている。来院者の7割が自動車を利用し、その他が公共交通機関や自転車等を利用している。車で来る人は、すぐ自宅に帰るが、それ以外の交通手段で来た人は、市内で買い物等をして帰る傾向にある。島から来た人は、船の時間まで買い物をしている。慢性疾患の患者も多いので、商店街に寄って買い物ができる仕組みを作るのは良いと思う。例えば、医療機関の来院者が商店街で買い物をしているような循環バス等の仕組みなどができると良い。</p>
厚地	<p>協立病院では駐車場は足りているんでしょうか？</p> <p>> 応答 川上</p> <p>日通跡地を借りるようになって改善されたが、患者さんが多いときは苦情があるときがある。</p>

発言者	発言内容
平田	市立病院と商店街の連携策として、病院内の売店との連携があげられる。現在、市立病院は市外の福岡等から仕入れているが、市立病院には商店街（地域の卸・小売業）が商品を卸すといった仕組みの構築等ができるとうい。
大西	<p>みなくるバスは誰が何のために使うものなのか？公共交通を、利用者・利用目的ごとに整備し、便益の受益者がそのコストを負担する仕組みを構築すべきである。お買い物バスであれば、商店がお金を出して、自分のところに停まるルートのバスを運行する。病院も自前でバスを走らせている事例がある。また、中心市街地のバスであれば、中心市街地を循環するルートで運行し、山間地のためのバスであれば、山間地から出てきた人が回りたいルートで運行する、また観光客向けの観光バスの運行などといった事が考えられる。</p> <p>25年間で多くの市町村が限界集落になる。商店街だけでなく、ロードサイド型大型店舗の衰退もあるかもしれない。人口減が加速しており、人を呼ぶことも含めて考えたほうが良い。水俣の魅力を作り出さないといけない。方向性をはっきりしないといけない。</p> <p>集客力のある施設と商店街をどう結びつけるかが重要である。集客力のある病院や市役所に商店主がものを持ち込んで売る取り組みが考えられる。売店の常設が難しい課題もあるが、軽トラを活用した軽トラ市という形で実施している地域の事例もある。</p> <p>空店舗の活用として、チャレンジショップに取り組む事例は多いが、プロがやってもうまくいかない場所で素人がやってもうまくいかない。空き店舗の活用は、必ずしもモノを売る場所である必要はなく、診療所、デイサービス、マッサージ施設、NPO事務所、塾など、「ついで」を作る（提供する）施設でもよい。</p>
平田	水俣の商店街の場合、後継者がいないために、空き店舗となったところが多く、店がつぶれたわけではない。店舗があれば、おのずと人通りは生まれる。店舗は何でも良い。
原田	<p>商店街の空き店舗は、居住スペースになっているものが多いため、店舗としての活用が難しい。</p> <p>>応答（大西）</p> <p>そのようなところは、もはや商店街とは呼べない。また、そのようなところに行政が施策を講じる必要もないだろう。</p>
植田	本気で商店主が頑張れば、そこに人は集まる。本気の店舗が、他の本気の店舗を集める。自分が満足に稼げないのは、自分が感謝されていないからであり、商店主としては、顧客に感謝され、十分に稼げるように一生懸命取り組むことが重要である。
平田	お店は一生懸命頑張らなければならない。各店舗でオンリーワンをいっぱい作る。ナンバーワンでは、大手には勝てない。今残っている商店は、オンリーワンがあるから残っているからである。自分のことを自分で知ることが大事。「攻め」の商売をすればよい。全体で取り組んでいかなければならない。JAの宅配はよい方法で、商店街でも取り組みたいと以前から話していた。
大西	<p>水俣が10年、20年後にどのような町を目指しているのか、今日の議論からは分からない。いろんなものを維持する場合、外から人を呼んでくることを考える必要がある。水俣に住む理由、魅力を打ち出す必要がある。</p> <p>買い物難民の問題は、10年単位で出てくる。今の大型店が撤退するかもしれない。生活必需品を確保することも行政の仕事として出てくる。その時に備えてどうするかが、今重要である。それを商機ととらえて、個店が単独で取り組む店舗もあれば、商店街と市内各地にある集落がうまく連携して取り組むこともあるだろう。</p> <p>>応答 鎌田</p> <p>中心市街地はみんなの場所であることを共通認識として持って活性化に取り組んでいくことが大切である。</p>